

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	1090200286		
法人名	有限会社ケアサービス平和		
事業所名	グループホーム平和		
所在地	高崎市飯塚町1301-1		
自己評価作成日	平成29年5月12日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	サービス評価センターはあとらんど		
所在地	群馬県高崎市八千代町三丁目9番8号		
訪問調査日	平成29年5月26日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

多方面から様々な助言を頂きながら質の高いサービスを提供し、地域の方々との触れ合いを大切にしている。又、ご家族との信頼関係を築ける様、外出時に参加して頂きコミュニケーションを図ったり、ご家族等に気軽に遊びに来て頂ける様、開放感、友好的な雰囲気作りを心掛け、利用者様の笑顔・ご家族や繋がりのある方々の笑顔・職員の笑顔の溢れるグループホームを目指しています。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

利用者の身なりが清潔で、表情も晴れやかであり、生き生きとしていることから、安心して自由な生活を送っていることが伺える。離れて暮らす家族にとって、利用者がプライドを持って笑顔で生活していることは安心に繋がり、「私達はあなたの笑顔がみたいです」という事業所の理念に沿った努力が確認できる。また、生活の場として利用者に希望に応じ役割を担ってもらい、9人の共同生活を円滑にする為それぞれの個性がぶつからないよう配慮した支援がうかがえた。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念の中にある「私達はあなたの笑顔が見たいです」という言葉のように、職員との信頼関係を築ける様務め、一度でも多くの笑顔が見られる様な支援を心がけている。	事業所、職員がそれぞれ理念を理解し、共有することで、理念に沿った支援が利用者へ実践、提供できるよう取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ボランティアの方々に毎月来所頂いたり、民生委員の方に慰問に来て頂き、利用者様と交流したり会話を楽しんで頂いている。又一人づつ買物やお茶をしに外出してお店の方達との交流をはかったり、散歩に出かけ近所の方と交流をはかり花を頂いたり、お礼をしたりしている。又町内のどんど焼きや納涼祭に参加し地域の方々との触れ合いを楽しんで頂いている。	毎月定期的にボランティアの訪問や慰問(手品・アコーディオン等)があり、演目や会話を通じて交流を図っている。また、近隣の行事(どんど焼き等)に参加することで事業所が地域の一員となり、利用者が地域と交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域密着型連絡協議会発足の認知症相談窓口に登録し随時相談を受付けている。又、運営推進会議を通じ、安心センターの方や区長、民生委員の方々と施設内の話をしたり介護保険制度や介護等の情報提供をしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では、グループホームの行事など毎月の出来事を把握して頂いたり、広く地域の方々と交流をはかれる様な議題提案をさせて頂いている。会議では出席頂いた方々の意見・アドバイスなども次回までに改善したり、変更したり取り入れさせて頂いている。	隔月毎に利用者、家族、区長、民生委員、安心センター、行政の出席により開催され、日常の取組み等について報告し、意見交換が行われている。家族の参加が少ないが、家族等へ議事録を送付している。	家族の出席は代表者だけではなく、毎回家族に案内を通知し、出席を促す取組みを検討してはいかがか。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議などの際、必ず市職員の方も出席頂き、アドバイスやご意見を伺っている。積極的にお話しさせて頂き、これまでに何度が改善、取り入れなどをさせて頂いている。	運営者、管理者が状況報告や相談、介護保険更新代行等を通じて、協力関係を築いている。また、認知症の相談窓口となり、地域の中で情報発信もしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	入社時には身体拘束の研修を必ず行い、具体的にどの様な行為が拘束の対象となるのかを学習し、身体拘束“0”を目指し、それに努めている。	新入職員に「身体拘束ゼロ」に向けて研修を行なっている。玄関に繋がる中間扉にチャイムを付けたり、気軽に外に出られるようデッキを利用する等の工夫をし、拘束のないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	入社時に虐待の関する研修を必ず行っている。虐待発見時の通報義務についても、福祉に携わる者として常に心がけるなど、確認している。又、利用者様が自宅へ帰る際、口論や喧嘩等起きない様ご家族と話し合いを持っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居時に制度のある事を説明し、利用されるか確認をしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前より、十分な説明をさせて頂いている。入居後も随時話し合い等を行い、解約時も段階を経て行っている。又、改定の際も十分に説明させて頂き同意書を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や面会等で、ご家族様などから意見・ご感想を伺い、記録し、改善・変更出来る点はすぐに反映している。又、ご家族とも気軽に色々な事を話せる様、友好的な雰囲気作りを心がけている。	本人とは直接話をして、要望を汲むようにしている。家族とは日頃から気軽に自由に話をし、共に見守っていく雰囲気ができている為、意見や要望を聴く機会があり、運営に反映させやすい。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月一回の職場会議時、職員に自由に意見出来る時間を設けたり、日々の業務の中で一人ひとりの職員から意見や提案を聞く機会を設ける様に心がけている。改善すべき点は改善し、相互理解出切る様に努めている。	月に一回職員会議が開かれ、職員からの意見や提案について話し合われている。同意が得られた提案はケアに反映され、実践している。また、より具体的な意見はモニタリングで話し合っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者や職員が提案や意見を言いやすい雰囲気作りを心がけ、ホームに顔を出したり、毎月一回の外出にも参加してコミュニケーションをはかり、環境改善の提案も聞き入れて改善整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修や会議、資格受験等のポスターを貼り、参加推進を働きかけている。新入職員に対してもマンツーマン体制で丁寧に指導している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	群馬県地域密着型サービス連絡協議会へ加入し、管理者や職員が同業者と交流する場へ参加出来る様働きかけている。又、他の施設との合同運動会を開催し職員同士の交流をはかったり、管理者同士連絡を取り意見を聞いたりしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居相談を頂いた後、必ずご本人と面接を実施し、不安な事や要望等聞く様に努めている。その際なるべくご自宅へ伺い、ご本人の生活環境なども見せて頂き、理解を深められる様努めている。入居後も個別で外出をするなど話しやすい環境を作りコミュニケーションをはかっている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	これまでのご家族の苦労やサービス利用状況等、経緯について、ゆっくりお話を伺いながら関係を築いていける様にしている。来所時にも色々な話をさせて頂いたり、ご家族と外出する機会を設けたりし、信頼関係が持てる様努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、ご本人やご家族の思いや状況などを確認し、何がこの方にとって必要であるかを見極め、可能な限り柔軟な対応ができる様に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	支援する側、される側という意識を持たず、長く生きてこられた人生の先輩であるという事を常に心に留め、昔の風習や料理の味付けなど教えて頂いたり、手伝いや片付けをして頂いたり、又、雑巾や利用者の洋服のほつれを縫って頂いたり、洗濯物干しやたたむなど出来る事はやって頂き、共に協力しながら生活している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族にいつでも来て頂ける体制にしてあり、その際にはご家族の思いに寄り添い、日々の暮らしの出来事や気づきの情報共有に努め、又、家族と毎日電話出来る様支援したり、行事参加を毎回呼びかけ、ご家族と職員、利用者様と関係を深められる様努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	門戸を広げ、ご家族や友人がいつでも来て頂ける様に、開放的な雰囲気、友好的な雰囲気づくりを心がけ、来て頂いた方々と記念写真を撮ったりしている。又、ご家族と一緒に外出する機会を設けたり、図書館に本を借りに行ったり、コーヒーを飲みに行くなど支援に努めている。	事業所は家族や友人に気軽に訪問してもらえるよう心掛けている。これまでの習慣や馴染みのことが継続できるよう図書館や書店に行ったり、剣道の所作を取り入れる等、一人ひとりを対象に支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事の席を配慮したり、全員集まる時には共通の話題を提供したり、歌を歌ったりしている。なかなかお話し出来ない方に寄り添い話しかけながら、穏やかに生活できる様努めている。又、利用者全員で出来るレクリエーションや工作などを行い、協力して行う事で達成感が得られる様工夫している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了した方とも、遊びに来て頂ける様声掛けしたり、思い出の写真を差し上げたり、通夜や葬儀にも参加させて頂いている。又、電話をし状況把握に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で話しやすい雰囲気作りに努めたり、声掛けをしたりして、意向の把握に努めている。又、職員と一対一で散歩に出かけ話を引き出したりしている。その他ご家族からも話を伺ったり、情報を頂いている。	利用者一人ひとりと話をして要望や意見を聴くようにし、一年の抱負や七夕の願い事等の思いも参考に、ケアに取り入れられるものは反映させている。家族からの提案や意見も参考にし、利用者にとってより良い支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	以前通っていた他の施設の方に話を伺いに行ったり、ご本人から伺ったり、ご家族・ご友人などの面会の際にも、少しずつ伺い把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活スペースに合わせ、その中で出来る事に注目し、その方の全体の把握に努めている。又、利用者の訴えには耳を傾け、心身状態が把握出来る様努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月に一度のモニタリングでケアマネと職員が話し合い、ご本人がより良く生活して頂ける様、ご本人・ご家族のご要望、医師等の意見を含め、普段の生活記録や様子など総合的に反映し、介護計画を作成している。	モニタリングは月に一回、定期的な見直しは3ヶ月に一回、ケアマネジャーと職員が話し合い、利用者、家族の要望や意見を主に、医師等の意見も取り入れて現状に即したケアプランを作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別ケア記録、連絡ノートで個々の状態変化等記録し申し送りなどで情報を共有している。職場会議やモニタリング時、職員同士で話し合い、介護計画の見直し等に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々で生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族の事情や環境、利用者様の心身の状態等の変化など、その時々で違う為、ご家族と良く話し合ったり、モニタリング時にその時々状況を話し合い、柔軟で多様化したサービスに対応出来る様取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方々や近隣施設への働きかけや、ボランティアの方達の協力も得て、町内の催し物に参加させて頂いたりして利用者様に楽しい時間を過ごして頂いている。又、毎月利用者様と図書館へ行き皆で読める本やビデオを借りている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族の希望を大切に、入居時に主治医の選択をして頂いている。一人ひとりの受信記録を作成し、全職員が情報を共有している。又、主治医に月2回往診に来て頂き、利用者様・職員ともコミュニケーションをはかり関係を築いたり、緊急時、急変時にも対応出来る様24時間体制を取って頂いている。	入居時に、希望する医療が提供されるようかかりつけ医の選択ができることを説明している。月に2回往診があり、歯科は必要に応じて往診を依頼している。緊急時の受診は職員が対応する。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護資格を有する職員を中心に、毎日の体調把握に努め、記録し、小さな変化にも対応出来る体制を築いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、管理者、ケアマネが情報提供を行い、ご家族も含め三者一体となり、入院ダメージの軽減に努めている。又、入院中も医師や相談員と話をする機会を持ち、退院支援に結び付けている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時、ご家族と重度化や終末期に向け事業所で出来る範囲の事を説明させて頂き、方針の相談を行い「意思確認書」を作成して頂いている。又、その時は担当医師と出来る限り密に相談し、ご本人の望まれる終末期のあり方の再確認をご家族と行っている。	看取りについては入居時に家族に説明し、同意を得て「意思確認書」を作成している。段階的に家族と協力医、事業所が話し合い方針を決めていく。看取りの実績がある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応マニュアルを作成し、研修を行っている。救急車要請の具体的なレベルを提示し、緊急時時着いて対応出来る様に日常的に意識している。又、消防署の協力を得て救急時の対応の講義や心臓マッサージ訓練を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災時マニュアル、災害時マニュアルを作成し、常に非常時をシミュレーションしながら、日常業務を行っている。又、区長や民生委員の方との連携も依頼し、関係を築いている。又、月に一度避難訓練を実施し、その場で避難方法や不備な点等を話し合っている。	定期的な消防署立ち会いの消防訓練に加え、月に一回夜間、日中の地震、火災を想定した自主訓練を行なっている。利用者、職員が参加し、避難場所等の確認をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々にあった対応を心がけている。人生の先輩である事を忘れず尊敬の気持ちを持ち、言葉がけ、呼び方など配慮している。	職員とケアマネジャーが日頃から利用者一人ひとりを理解し、尊重することを心掛け、話し合って対応を決めている。また、職員は支援の際、利用者の意向を優先するよう努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員と利用者様が気軽に話せる雰囲気作りに努め、希望や要望が言いやすい様、一人ひとりに合った声かけを心がけている。又、返事の遅い方は返答があるまで待ち、出来ない方にも表情を読み取るなど、ご本人の自己決定をゆっくり待つ様に心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大体の一日の流れはあるが、その方のペースが最優先で、無理強いせず、その方の気持ちに沿った支援を心がけている。夕方に自由な時間を設け、ご自分のやりたい事、カラオケや編物、読書、塗り絵等をして頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2ヶ月に一度散髪をしたり、職員と一緒に買物に行き化粧品や洋服など選んだりして頂いている。外出する際は、個々に好みの服を着て頂き、お化粧品等をして楽しい気分で掛けられる様支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食べたい物をリクエストして頂きメニューに反映している。食事作り、テーブル拭き、食器片付け等出来る方には手伝って頂いている。又、利用者の方と手巻き寿司やおやつと一緒に作ったりしている。又、お昼の時間は職員も一緒にお茶をしながら会話を楽しんだり、おやつの中には好きな飲み物を選択して頂き提供している。	利用者の希望を反映させたメニューを週間単位で作成している。一緒に食事を手作りしたり、下膳や食器ふき等の片付けをしてもらい、菜園の野菜が食卓に上がり、月に一回外食を楽しんでいる。	検食者を毎日決め、食事の味や量、調理方法等適切な食事が提供できているか確認することに取り組んではいかがか。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	主治医の先生と相談し、利用者様ごとに栄養面を考慮し食事量を調整したりしている。(食事、水分摂取量を毎日記録している) 入浴後にはアクエリアスを必ず飲んで頂き脱水予防に努め、又、水分をあまり摂らない方には、先生からお話し頂いたり、色々な飲み物を提供し水分補給をして頂いている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後必ず口腔ケアを実施し夜間は義歯を預かり消毒している。ご自分で磨いて頂いた後、職員も確認する様に心がけている。自分で磨けない方は職員が手伝いながら磨いている。定期的な歯科医の往診でご指導頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとり排泄や飲水記録を付け、パターンを把握する様心がけている。把握により声掛けのタイミングをつかみ、トイレで排泄して頂ける様誘導し支援している。	排泄チェック表や習慣、特有の様子の変化によって一人ひとりの排泄パターンを把握し、個別で状況によるが、昼夜トイレ誘導をするタイミングを図り、自立の方にも確認させてもらいながら、快適な支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日のメニューに配慮し、牛乳やヨーグルト、ひじき、根菜類など食物繊維を多く摂る様にしている。毎日午前、午後と体を動かす支援をしたり、散歩に行ったりし自然排泄出来る様取り組んでいる。又、便秘気味の方は主治医と相談し対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	季節に合わせて菖蒲湯や柚子湯など工夫したりしている。入浴を拒否される方に対しては、声掛けを工夫したり時間を変えて入浴して頂いている。又、失禁時はシャワー浴をして頂いている。又、出来る範囲で一日一人ではあるが希望入浴を実施している。	入浴は週2回、一日3人、午前中と決まっているが、様子を見て声掛けをし、希望があれば入浴できるよう取り組んでいる。失禁時や汗をかいた時はシャワー浴を実施している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の体調や活動サイクルに合わせて、昼寝をして頂いたりソファで休んで頂いている。又、なかなか寝付けない方には職員と一緒に付き添い、廊下歩行したり、テレビを見たり、ご本人に合わせて休息して頂ける様心がけている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ご自分で口に入れられる方には手渡し服用確認している。その方に合った服用方法が心がけている。又、服薬情報を職員全員がすぐ確認出来る様掲示したり、処方薬一覧を置いてあり把握出来る様工夫している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その方に合った楽しみ(塗り絵や編物、書道等)を見つけて頂き、好きな事、得意な事を把握し張り合いや喜びのある時間を過ごして頂ける様心がけ、又、作品を飾り皆さんにも見て頂ける様にしている。気分転換で外にコーヒーを飲みに行ったり、毎月の外出先や外食先を利用者様と検討し楽しみが持てる様支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や買物など戸外へ出掛けられる様支援している。又、何処へ行きたいか、どんな事がしたいかなど希望を聞き、買物や外食、季節毎の花見など実行している。又、毎月一回の全員での外出には、ご家族の参加を呼びか一緒に出掛けられる様支援したり、いつでもご家族と外出・外泊もして頂いている。	利用者が個別に外出、外泊を希望する時は、意向に沿うよう支援している。月に一回全員が外食する際は、家族の参加も呼びかけ一緒に出かけられる機会を設けている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族からお金を預かりねご本人の希望で買物が出来る様支援している。職員と一緒に買物に行った時や外出行事でお土産を買う時など、職員が見守りながら支払いをして頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかけたいと希望される方には、かけてお話しして頂いている。又、携帯電話で時間帯を決めご家族とゆっくりお話し出来る様にしたり、一緒に葉書を買に行き手紙等やり取り出来る様に支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホール外のデッキに洗濯物を干したり、キッチンも対面式で料理の匂いなど生活観を感じて頂いている。テーブルには庭で摘んできた花を飾ったり、食事時にはBGMをかけている。又、鯉のぼりや七夕飾りなど飾り季節感を出したり、庭には季節の花が植えてあり、家庭菜園を毎年行い収穫を楽しんでいる。	共用空間は掃除が行き届き、不快な臭いも無く、特に水回り等整理整頓され気持ち良く生活が送れるよう工夫されている。掲示物や装飾には季節感があり、ホールから続くデッキも共用空間として活用されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホール内にスペースを分けたり、イスやソファを置いて思い思いに座って頂いている。食事テーブルも仲の良い方同士を隣にするなど配慮している。又、気の合った仲間でお部屋に行き女子会が出来る様支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に自宅で使用していた馴染みの物を持って来て頂ける様ご家族にお願いをしたり、カレンダーや家族写真を貼ったり、お好きな花を飾ったりしている。タンスの整理なども一緒に行っている。	馴染みの物(仏壇、筆筒、書物、写真等)が置かれ、自宅を再現したような居室が個性的で、温かみがあり、居心地の良い充実した空間になっている。排泄用品も配慮のある整理がされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	外出時け、座って靴を履ける様に玄関にイスを置いたり、ご自分の部屋が分かる様に大きな文字の名前と写真を掲示している。又、対面キッチンで中が見える事で「手伝うよ」と自ら声をかけてくれたり、味見や手伝いをお願いを声掛けしている。		